

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	49人	算数	49人	理科	49人
第5学年	国語	36人	算数	36人	理科	36人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

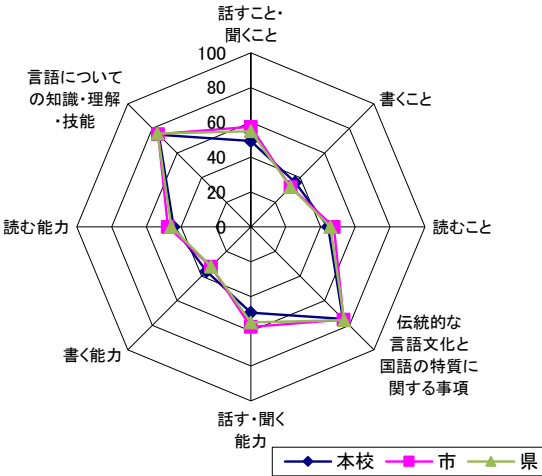
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市上河内中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	49.3	57.5	54.9
	書くこと	36.1	32.3	32.3
	読むこと	44.4	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.8	75.3	75.8
観点	話す・聞く能力	49.3	57.5	54.9
	書く能力	36.1	32.3	32.3
	読む能力	44.4	47.7	45.7
	言語についての知識・理解・技能	74.8	75.3	75.8



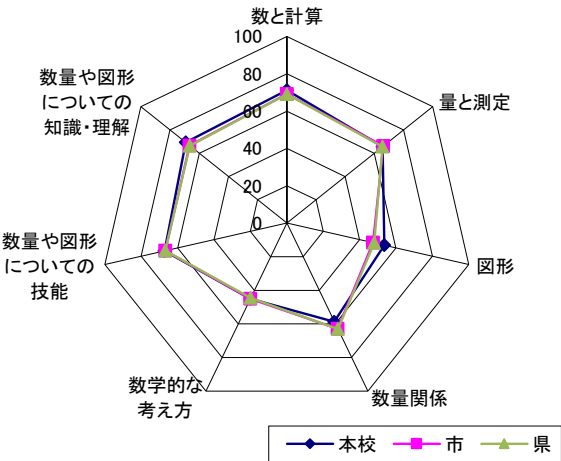
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●校内正答率は49.3%で、市の平均に比べて8.2ポイント、県の平均に比べて5.6ポイント低い。 ●「話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行すること」についての正答率が、市の平均に比べて12.4ポイント、県の平均に比べて9.4ポイント低い。 ●「話の中心に気を付けて聞き、自分の意見を述べること」についての正答率も、市や県の平均より低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ●小グループで話し合いを進めるときに、マニュアルカードを活用し、効率的な進め方について指導することで、話し合いの進め方を体得させる。 ●朝の会や学級活動で、決められたテーマや話題について、自分なりの考えをもち、友達の前で意見を述べる機会を設ける。
書くこと	○校内正答率は36.1%で、市・県の平均より3.8ポイント高い。 ○「叙述や会話文を基に、登場人物の性格を捉えること」の正答率は、市の平均に比べて2.1ポイント、県の平均に比べて5.3ポイント高い。 ○「メモを基に、報告レポートに記述する内容を考えて書くこと」の正答率は、市の平均に比べて7.5ポイント、県の平均に比べて6ポイント高い。	●短答式、記述式とも全体的にはよくできているが、個人差があるので、書く活動のときは、個別指導に多く時間を取り、全体の底上げを図っていく。
読むこと	●校内正答率は44.4%で、市の平均より3.3ポイント、県の平均より1.3ポイント低い。 ●「叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む」ことの正答率が市の平均に比べて6.1ポイント、県の平均に比べて5.5ポイント低い。	●朝の学習の時間に、読み取りのプリント学習を行い、自分の苦手な部分を洗い出し、自主学習などで繰り返し学習させ、定着を図る。また、簡易な表現に書き換えた教材を活用するなどして、答え方のパターンを身に付けさせる。 ●説明文では、指示語や接続語に着目させ、全体の構成や段落ごとの関係を捉えさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●校内正答率は74.8%で、市の平均に比べて0.5ポイント、県の平均に比べて1ポイント低い。 ○ローマ字での表記の正答率は、市や県の平均に比べて15～20ポイント高い。 ○国語辞典の使い方の正答率は、市や県の平均に比べて10ポイント近く高い。 ○漢字の読み書きとも、市や県の平均に比べて17ポイント近く低いものもある。	●漢字の読み書きに関しては、個人差が大きいので、テストでできなかった漢字を中心に個別に再指導するとともに、家庭への協力を呼び掛けて、自主学習などで定着を図っていく。 ●国語辞典の使い方については、よく定着しているので、これからも国語の時間に限らず、社会や理科などでの活用を図り、分からない言葉をそのままにせず、調べようとする意識の高揚を図っていく。

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.2	69.2	69.1
	量と測定	65.6	66.1	65.6
	図形	53.6	47.4	48.0
	数量関係	58.7	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	45.0	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	67.2	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	69.3	66.6	66.5



★指導の工夫と改善

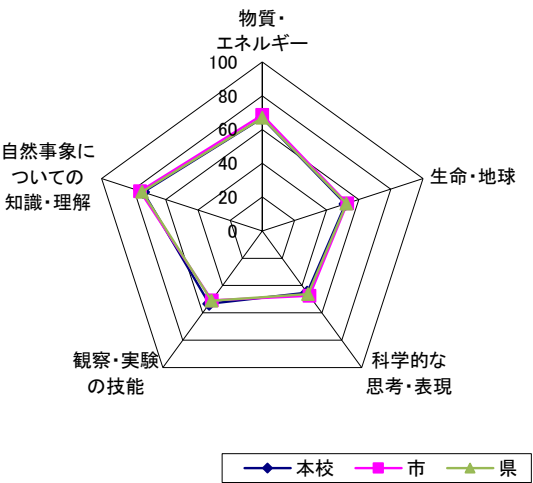
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○校内正答率は71.2%であり、県の平均より2.1ポイント高い。 ○県の平均より、かけ算の筆算が5.0ポイント、小数や分数の大小関係が5.0ポイント正答率が高く、よく身に付いていると考えられる。 ●数直線上での万の単位の数を読み取る問題では、県の平均より7.3ポイント低い。	・数直線を読み取る時に、1目盛りの値がいくつを表すのかが読み取れていないと考えられる。そのため、数直線やグラフ等、1目盛りがいくつを表すのかについて、いろいろな問題を通して、繰り返し復習させる。
量と測定	○分と秒の単位で表された時間を秒の単位で表す問題の正答率が87.5%であり、県の平均より8.1ポイント高く、よく身に付いていると考えられる。 ●はかりに示された重さを読み取る問題の正答率が75.0%であり、県の平均より11.7ポイント低い。	・数直線の問題と同様に、はかりの1目盛りがいくつを表すのかが読み取れていないため、誤答をしてしまったと考えられる。そのため、はかりの目盛りについても、プリントで学習内容を復習したり、実際にはかりで測る活動を取り入れたりして、1目盛りがいくつを表すのか問題を通して繰り返し復習させる。
図形	○校内正答率は53.6%であり、県の平均より5.6ポイント高い。 ○県の平均に比べて、直径を作図する問題では14.4ポイント、正三角形を作図する問題では5.1ポイント高い。 ●円を利用してかいた三角形の名前と理由について答える問題が、県の平均に比べて2.3ポイント低い。	・授業で作図を多く取り入れたことにより、作図の問題の正答率が高いと考えられる。 ・円を利用してかいた三角形の名前と理由を答える問題では、図形の名前は答えられたが、理由が不十分な児童が多かった。そのため、三角形の特徴を多面的に考えることが難しかったと考えられる。1つの問題に対して三角形の名前を答えるだけでなく、理由や特徴を答える活動も繰り返し取り入れる。
数量関係	●校内正答率は58.7%であり、県の平均より4.4ポイント低い。 ○未知の数量を口として、数量関係を表した線分図を選ぶ問題では、県の平均より6.7ポイント高い。 ●線分図から除法の式を立て、答えを求める問題では、A層とD層の差が88.9%だった。 ●棒グラフの目盛りを読み取る問題では、県の平均より9.0ポイント低い。	・線分図から除法の式を立てたり答えを求めたりする問題では、立式ができていないもの、答えが2桁になるため、答えが導き出しにくかったと考えられる。答えが2桁になるわり算の練習問題を繰り返ししていくことが必要であり、個別に指導していく必要もある。棒グラフの問題については、数直線やグラフの学習と同様に、1目盛りがいくつを表すのかを繰り返し指導したり、復習したりしていくようにする。

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.8	68.6	66.9
	生命・地球	51.8	52.8	52.4
観点	科学的な思考・表現	45.1	47.4	46.2
	観察・実験の技能	53.3	50.8	51.1
	自然事象についての知識・理解	74.1	76.1	74.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○物と重さは、校内正答率は88.9%であり、2.8ポイント県の平均より高い。 ●ゴムののびに関して実験結果を活用して選択して答える問題では、県の平均より9.3ポイント低い。 ○ゴムののびや風の強さと車の走る距離との関係を選択して答える問題では、10.2ポイント県の平均より高い。 ●回路をつくる際の導線の安全なつなぎ方を選択して答える問題では、県の平均を10.9ポイント低い。 ●はさみの導線をにつないだ時に、電流が流れなかったことについて学んだことを活用して答える問題では、5.7ポイント県の平均より低い。	・学期末や学年末に、復習の時間を設けたり、復習プリントに取り組ませることで、基礎的な知識・理解をさせる。 ・授業で自分の考えを書く場面を多く設け、意味理解を深めるために、説明を行わせる。 ・実験の結果から考察を書く際に、筋道を立てて書くことを指導することで、科学的な思考・表現を育てていく。
生命・地球	●昆虫の育ち方について選択して答える問題では、県の平均を30.0ポイント低い。 ●観察結果をもとに昆虫を選択した理由を記述する問題では、県の平均を14.9ポイント低い。 ○虫眼鏡の適切な使い方について選択して答える問題では、県の平均を15.0ポイント高い。 ○場所と見つけた昆虫の数をグラフから考察して、選択して答える問題では、県の平均を11.6ポイント高い。	・関連のある単元や、同じ実験器具を使う場面では、既習の内容を事前に確認し、基礎・基本の知識・理解へとつなげるようにする。 ・生命・地球に関しても、記述する場面を多く設け、根拠を明確にして書くことを指導することで、科学的な思考・表現を育てていく。

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○児童が「学校の宿題は、やりたくない内容だ。」や「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。」「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」の児童の肯定的な回答の結果は、72.1%・79.2%・60.4%であり、栃木県の肯定的な回答の66.4%・73.2%・56.0%と比べ、高い値をしめしている。家庭学習力、学級計画力や自己有用感が高かった。

○「先生は学習のことについてほめてくれる。」と肯定的な割合は95.8%であり、栃木県(81.7%)より14.1ポイント高い。担任が児童のことをよく見て、すばやくほめていることがうかがえる。

○「家でテストでまちがえた問題について勉強している。」「家で、学習の授業の復習をしている。」の肯定的な割合は、75.0%・79.2%で栃木県(66.3%・62.8%)より高い。家庭でも学習をよくみているようだ。家で復習やできなかったところをやり直すことができている。今後も家庭と連携しながら進めていきたい。

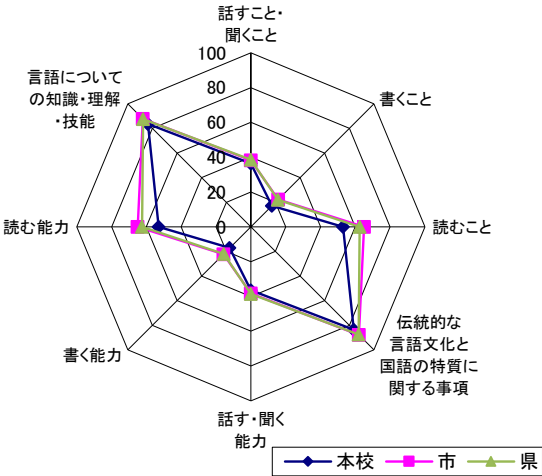
●「国語の学習で自分の考えを書くとき、考えの理由がわかるように気を付ける書いている。」の肯定的な回答率は、83.2%であり、栃木県(74.2%)より高い。また、「クラスの友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすること」の肯定的な回答率は83.3%であり栃木県(72.3%)より高い。しかし、「次の教科などの学習は好きですか。国語」の肯定的な回答は62.5%であり栃木県(67.3%)より低い。国語の学習は大切だと思うが、国語の学習はあまり好きではないという結果だった。考えをまとめたり、書いたりすることが、将来の自分につながっていくことを認識させたい。

●「算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている。」の肯定的な回答は68.1%であり、栃木県(73.2%)と比べると5.1ポイント低い。算数の学習内容は、日常のことと深く関わっていることに気付いていけるように、身近な教材を取り上げるようにする。

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	36.4	38.3	38.5
	書くこと	17.2	22.3	21.9
	読むこと	53.0	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	83.6	87.8	87.5
観点	話す・聞く能力	36.4	38.3	38.5
	書く能力	17.2	22.3	21.9
	読む能力	53.0	65.0	62.5
	言語についての知識・理解・技能	83.6	87.8	87.5



★指導の工夫と改善

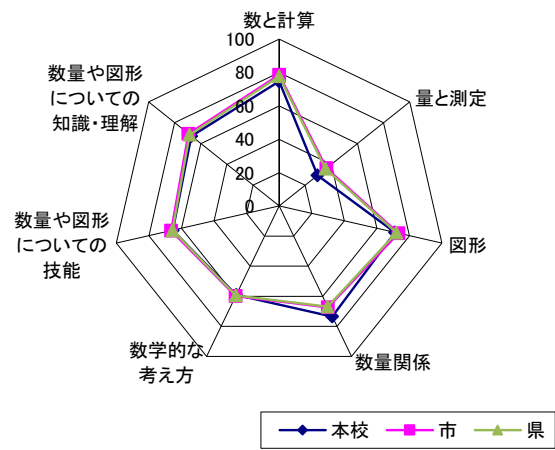
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●校内正答率は36.4%で、市の平均に比べて1.9ポイント、県の平均に比べて2.1ポイント低い。 ○「考えの共通点や相違点を整理しながら聞くこと」についての正答率は60.6%で、県の平均に比べて1.2ポイント高い。 ●「話し合いにおいて司会者に役割を理解し進行すること」についての正答率は36.4%で、市の平均に比べて2.9ポイント、県の平均に比べて4.1ポイント低い。	・授業中の発表に関して、基本的な話型をもとに、継続的に指導を行う。 ・朝の会や帰りの会の中でのスピーチ活動では、児童の興味関心を高めるようなテーマを取り上げ、継続した指導により、話す力や聞く力を身に付けさせる。 ・国語はもとより会話科や他の教科・領域においても、互いに話したり聞いたりする機会や場の設定を工夫し、互いの意見を尊重した話し合いができるようにする。
書くこと	●校内正答率は17.2%で、市の平均に比べて5.1ポイント、県の平均に比べて4.7ポイント低い。 ○「文章の構成を意識し、内容を工夫してリーフレットを作ること」についての正答率は55.5%で、市の平均に比べて4.6ポイント、県の平均に比べて5.7ポイント高い。 ●「メモの内容に新しい情報を加え、リーフレットに入れること」については、市の平均に比べて3.4ポイント、県の平均に比べて2.9ポイント低い。	・行事の際の作文指導や日頃の日記指導等については、主題の設定及び主語述語の関係や修飾語の使い方について、個別指導を行い、事柄のまとまりや前後の文の関係、また接続語の使い方等に気を付けながら段落を構成するよう指導する。
読むこと	●校内正答率は53%で、市の平均に比べて12ポイント、県の平均に比べて9.5ポイント低い。 ●「書くこととすることの中心を明確にして書くこと」についての正答率は27.3%で、市の平均に比べて15.2ポイント、県の平均に比べて12.1ポイント低い。	・物語文で、登場人物の心情の変化や情景の変化を読み取る力をつけるために、読書タイム等を活用して、読書に関する興味関心を高める。また、図書室の利用や図書の紹介等を取り入れて、物語を読む機会を充実させる。 ・説明文の学習では、接続語や問いかけの文等をポイントに、段落ごとの関係や全体の組み立て方等について指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●校内正答率は83.6%で、市の平均に比べて4.2ポイント、県の平均に比べて3.9ポイント低い。 ○「漢字の書き(ルールを守る)」についての正答率は97%で、市の平均に比べて3.5ポイント、県の平均に比べて3.2ポイント高い。 ●「漢字の読み(大学で病気のけんきゅうをする)」についての正答率は51.8%で、市の平均に比べて20.5ポイント、県の平均に比べて18.8ポイント低い。	・日頃から文章を書く際には、漢字の送り仮名に注意しながら、既習漢字を適切に意識して使うよう指導する。 ・家庭と連携して、漢字のドリル学習を進め、慣用句やことわざ等も適宜紹介しながら継続的に指導する。 ・教室に新出漢字を掲示したり、各単元において小テストを実施したりして漢字の読み・書きが定着するよう指導する。

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.7	78.6	77.7
	量と測定	29.5	36.3	35.7
	図形	71.2	73.3	72.1
	数量関係	73.5	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	59.1	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	65.3	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	67.2	69.4	68.5



★指導の工夫と改善

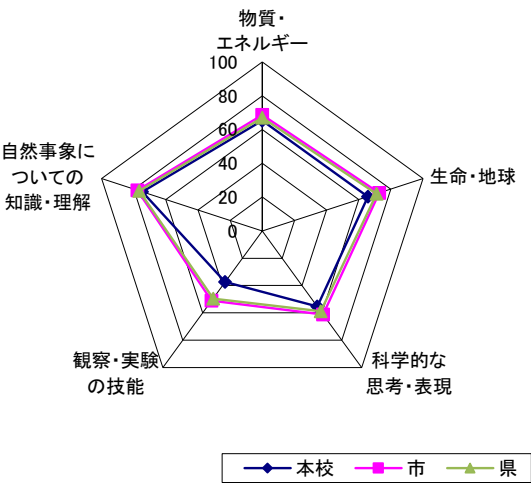
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●校内正答率は74.7%であり、市平均と比べて3.9ポイント、県平均と比べて3.0ポイント低い。 ●小数－小数の問題では習熟度に大きな差がみられる。 ●県の平均正答率と比べて3ケタ÷2ケタの問題では11.0ポイント、分数のひき算では15.2ポイント低い。	・小数の除法や分数のひき算など、計算の仕方について、個別に指導し習熟を図る。 ・朝の学習や家庭学習などを活用して計算問題に取り組ませることで、計算力の向上を図る。
量と測定	●校内正答率は29.5%であり、市平均と比べて6.8ポイント、県平均と比べて6.2ポイント低い。 ●1㎡の正方形は1cmの正方形何枚分かを求める問題では、校内正答率が39.4%であり、市平均と比べて9.3ポイント、県平均と比べて6.9ポイント低い。	・具体物を活用しながら面積の単位についての概念が理解できるよう、習熟を図る。 ・身近なものの面積について予想させる場面や求めさせる場面の設定をすることで、定着を図る。
図形	●校内正答率は71.2%であり、市平均と比べて2.1ポイント、県平均と比べて0.9ポイント低い。 ●与えられた2辺の続きをかくて、平行四辺形を完成させる問題では校内正答率が54.5%であり、市平均と比べて4.2ポイント、県平均と比べて5.3%低い。	・作図の手順やコンパス・三角定規の使い方について、個別に指導し習熟を図る。 ・立体図形等の具体物やデジタル教材を活用してそれぞれの図形の特徴等の理解を深めさせ、習熟を図る。
数量関係	○校内正答率は73.5%であり、市平均と比べて6.1ポイント、県平均と比べて6.6ポイント高い。 ○二次元表の欄にあてはまる数を求める問題やグラフの活用問題などで平均正答率が市や県より10ポイントほど高い。	・グラフから情報を読み取り活用する場面を設定するだけでなく、根拠をもとに話し合いを行うなど言語的な学習により一層取り組んでいく。

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.3	68.6	67.0
	生命・地球	65.7	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	55.3	61.2	58.8
	観察・実験の技能	37.4	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	74.7	77.7	76.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●校内正答率は、65.3%であり、県平均より1.7ポイント低く、市平均より3.3ポイント低い。 ○「水は熱せられると上方へ移動することが分かる」の本校正答率は100%で、県や市の平均よりも13ポイント高かった。 ●「金属は熱した部分から順に温まることが分かる」「結果から金属の棒の温まり方について説明する」が共に、県や市の平均よりも10～20ポイント低く、正答率が低い。 ●「ポットを押したときに湯が出る理由がわかる」が、市や県よりも10ポイント低い。	・全体的な傾向として、実験を通して体験した内容の理解については正答率が高い。実験を多く取り入れていくのと同時に、「予想」→「実験」→「結果」→「考察」の一連の流れを丁寧に行っていく必要がある。特に、記述式問題や発展的な問題の正答率が低い傾向にあるので、実験結果からどのようなことが分かるのかを説明できるように指導していく。 ・「ポット」の問題は、空気や水の性質の発展問題である。こうした身近な現象を学習内容と関連付けて説明させることも大切である。
生命・地球	●校内正答率は、65.7%であり、県平均より5.4ポイント低く、市平均より7ポイント低い。 ○「太陽の動きから地面に立てた棒の影の動き方がわかる」は、県平均より9ポイント高く、市平均より8.2ポイント低い。 ●「秋のころのオオカマキリのようなすがわかる」「冬のころのサクラのようなすがわかる」などの自然分野の正答率が、市や県よりも10～20ポイントも低い。 ●「星座の動きを捉えるために適切な記録方法がわかる」「数時間ごとの月の動き方がわかる」などの天体分野は、市や県よりも14～18ポイント低くなっている。	・「太陽の動きから地面に立てた棒の影の動き方がわかる」の正答率が高く、反対に同じ天体領域である「星座」「月」の分野が低かったのは、実験を通して実感を伴った理解をしたかどうかによる。したがって、動画を見せたり、家庭での観察がしやすいよう配慮したりする必要がある。 ・オオカマキリやサクラの春夏秋冬の様子の理解度が低かった。様々な生き物や植物にも関心をもてるようにはたらかせるようにする。

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、朝食を食べている」が100%で、「早寝、早起きを心がけている」が90.6%と県の平均を12.3ポイント上回っていることから、基礎的な生活習慣がしっかり身に付いていることが伺える。

○「次の学習は将来のために大切だと思うか 国・社・算・総」では96%～100%と高い値を示している。さらに児童の興味関心を高め、学習意欲につなげられるような指導に努めていきたい。

○「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」や「学校のきまりを守っている」が100%という値を示しており、学級全体に規律があり温かみのある学級づくりが進められていると考える。

●「時間を上手に使うことを、心がけている」は93.8%と県の平均を15.0ポイント上回っているが、「家で、自分で計画を立てて勉強している」肯定割合は43.8%と平均を28.2ポイント下回っている。今後は、生活全体から上手に生み出された時間を、学習時間として有効に活用できるように指導するとともに、日課の中に定着できるように学習計画表などの活用を図っていく。

●「自分はクラスの人の役に立っている」は78.1%と県の平均を20.7ポイント上回っているが、「自分の行動や発言に自信を持っている」肯定割合が53.1%と平均を7.9ポイント下回っている。今後さらに互いの考えを認め合えるような場を設定し、自己有用感の高まりにつなげていきたい。

●「家で、学校の授業の復習をしている」が、53.1%と県の平均を12.4ポイント下回っていることから、家庭学習の進め方についてプリントで示したり、家庭学習ノートを通しての個別指導を行ったりしていくようにする。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と答えている児童は75.0%と県の平均を18.8ポイント低く、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」は56.3%と18.3ポイント低い。これらのことを踏まえ、授業のふり返り活動を文章で行うことを習慣付けたり、1時間の授業の中に自分の考えを書く時間を意図的に組み入れていくことを心がけていきたい。

宇都宮市立上河内中央小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学び合いのある授業づくり 「主体的・対話的で深い学び」の創造	ペアやグループ学習などを取り入れ、児童が自信をもって取り組めるようにし、話し合い・教え合いを通して、思考の筋道をたどりながら、自分の考えを表現できるよう指導している。	4・5年生ともに、対話力は市の平均とほぼ同じであった。「グループでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定割合は、4年79.2%（市平均より+6ポイント）、5年71.9%（市平均より-5ポイント）であった。学年間の差がみられた。
学習のきまり（授業スタンダード）の徹底	1単位または、単元全体で「はっきり・じっくり・すっきり」を基本とした授業の展開を図っている。特に「すっきり（学習のまとめ・振り返り）」では、時間を確保し、ノートなどに記入するよう指導をしている。	「学習の目標とまとめを書いている」では、肯定割合が4年は85.4%（市平均より+7ポイント）、5年78.1%（市平均より-7ポイント）であった。5年は昨年度72.7%より+5.4ポイント上がった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習のすすめ」を作成し、全家庭に配付するとともに、児童には家庭学習の取り組み方の指導をしている。宿題等の見取りを行い、宿題に取り組む意識の向上を図っている。	「宿題は自分のためになる」の、肯定割合が4年は、93.8%、5年は96.9%（昨年度より+3.1ポイント）と9割を超え、定着が見られるが、「家で自分で計画して勉強をしている」では、4年が70.8%（市より+2.8ポイント）5年43.8%（市より-28.1ポイント）である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
式に合った図形の面積を求める方法の説明など、根拠をあげて考えることが市の平均より10ポイント以上低い。	授業の中で、根拠や理由について考えたり、意見を述べたりする時間を確保する。	授業中、各結論を発表するだけでなく、その根拠や理由などについても説明するなどの機会を確保するとともに、課題設定や教師の発問を工夫する。
各教科の基礎・基本の問題の中に市の平均より10ポイント以上低いものがある。	朝の学習の時間などを利用して復習をし、学習内容の定着を図る。	結果から、『今年度中に復習するところ』を抽出し、4・5学年で朝の学習の時間等を利用して復習を徹底し、定着を図る。他の学年では、定着不十分な学習内容について復習をする。